

市長から 市民のみなさんへ 43



山陽小野田市長 白井 博文

19年度予算の編成作業は終わりましたが・・・

年明けから行ってきた平成19年度予算の編成作業が終わりました。2月21日にその予算案を記者発表し、市議会でも審議をお願いすることになります。

編成作業を終えた今の率直な気持ちは、何とも言えない心苦しさと胸が塞がれる思いがしています。限られた収入の中で優先順位をつけ、必要不可欠なものにお金を遣っていくのは、市の運営もご家庭の家計も同様です。しかし、現在の山陽小野田市の場合は、必要不可欠な事業を選ぶ前に、借金の返済（公債費）と、合併前に決議され、数年に渡って行うことが約束された事業（継続事業）に費やされるお金が先に逃げていき、その他日常的に必要な経費を加えると、所得税から住民税への税源移譲により市民税の増加が見込まれるにもかかわらず、“入”と“出”が全くつり合わないという状況のもとで、スタートした19年度の予算編成作業でした。

オーバーした“出”を何とかしなければと財政課職員とともに知恵を出し合い取り組んだ結果、事業の縮小、見直しとともに昨年に引き続き、市民のみなさんに少なからずの痛みを分かち合っていたくことを前提に、何とか予算を組み上げることができました。詳細につきましては、追って広報紙でお伝えする予定にしていますが、その内容に関しては市民のみなさんに、ただただ「申し訳ございません。ご理解、ご協力をお願いします」と繰り返すしかありません。

暗いトンネルの中に突入してしまいましたが、少しでも早く脱出できるように努力は続けていくつも

対話の日

※いずれの会場も19:00から



2月22日(木) 沖中川六十番自治会館
3月 8日(木) 西善寺公会堂
3月22日(木) 北竜王自治会館

りです。2月1日号の広報紙でお知らせした「いいの村江汐」の売却など市所有財産の整理や、企業誘致に関する情報提供者への報奨金制度など、すでに取り組みをはじめているものもあります。企業誘致については、市議会に設立された「企業誘致促進特別委員会」と連携しながら、特に力を入れて取り組んでいきたいと考えている分野です。

まさに“崖っぷち予算”となった平成19年度予算案ですが、市職員一丸となってこの危機を乗り切っていくつもりでいます。重ねて、市民のみなさんのご理解ご協力をお願いします。

文部科学副大臣が本山小を視察しました

いけのぼうやすこ

2月5日、文部科学副大臣の池坊保子氏が本市で行われている「生活改善・学力向上プロジェクト」の視察のため本山小学校を訪れました。私も同行したのですが、全国に先駆けて全市的にモジュール授業を導入している現場を見られた池坊副大臣は、教室で子どもたちがあまりに元気なのに感激された様子でした。6年生の音読（平家物語など）の授業で、クラスの全児童が先生と一緒に机をはりせんでたたきながら本物の講談師ばりに熱演している姿に、はじめてモジュール授業を見学した私も「小学校の教室で革命が起きている」と衝撃的な印象を受けたほどです。これなら子どもが成長していくうえで、大切な“規律性”と“集中力”も育つように思いました。

すべての児童を思いきり伸ばしていこうと取り組んでいる「生活改善・学力向上プロジェクト」も、導入後1年になろうとしています。データの的には確実にその成果が現われてきているようです。ご家庭での「生活改善」の取り組み（【早寝・早起き・朝ごはん】【長時間のテレビ視聴・ゲームの制限】）を引き続きお願いしたいと思います。



▲本山小を視察した池坊副大臣（左）と陰山英男氏（右）